

# 全ては健康を願う人々のために、 全社一丸となって力を尽くします

みなさまの健康をサポートする企業として果たすべき責務とはなにか。  
弊社代表が前年度のおもな取り組みと今後の目標を申し述べます。

## 超高齢社会の課題に、 真摯に取り組みます

超高齢社会において、日本のすぐれた医療保険制度をどのように充実させ、継続させていくか。このことが社会全体の大きな課題となっています。

2018年1月には、厚生労働省が「医療用医薬品の流通改善に向けて流通関係者が遵守すべきガイドライン」を発表しました。医薬品卸は、個々の医薬品の価値を踏まえた価格交渉の実行、頻回配送・急配の解消などを通して、適正なコストで医薬品を安定的に供給することを期待されています。当社グループもこの課題に対して真摯に取り組んでいます。

また、わたしたちは、「顧客支援システム」を開発し、病院やクリニック、調剤薬局に提案・販売して、医師や薬剤師など医療従事者のみなさまの業務をサポートし、ひいては患者さまの健康にも寄与しています。約2,000名のMS（マーケティング・スペシャリスト）が日々、お得意先を訪問し、医師や薬剤師からフィードバックを得て、「顧客支援システム」の利便性を高めています。「顧客支援システム」の開発・提案という「付加価値提供型ビジネスモデル」が当社の強みです。

2019年3月期の業績は、2018年4月の診療報酬改定における薬価引き下げの影響を受けて、売上高は前期比100.7%とほぼ横ばいとなり、営業利益、経常利益、純利益はそれぞれ前期比83.0%、85.7%、96.4%でした。しかし、続く2019年度上期の業績は、がん治療薬などの新薬やスペシャリティ医薬品、希少疾病用医薬品の売上の伸長、「顧客支援システム」の拡大などによって、売上高は前年同期比106.8%、営業利益、経常利益、純利益はそれぞれ前年同期比164.9%、142.9%、144.1%となり、期初計画も大きく上まわりました。

2019年4月に厚生労働省の「医療用医薬品の販売情報提供活動に関するガイドライン」が適用されました。東邦ホールディングス（株）はグループ・リスクマネジメント室を、東邦薬品（株）をはじめとする医薬品卸売事業各社と共創未来ファーマ（株）は販売情報監督室を設置し、ガイドラインの遵守に務めています。

## 「顧客支援システム」を通して 医療機関のみなさまをサポートしています

「顧客支援システム」の拡大を引き続き推進していますが、いま最も力を入れているのが、「薬局共創未来」会員をはじめとする調剤薬局へ向けた薬局本部システム「ミザル」の提案です。当社グループの調剤薬局で「ミザル」を導入し、過去の処方データをもとに需要を予測する「自動発注機能」によって配送回数の適正化を検証したところ、6割の薬局で週1回ないし2回の配送で済んでいます。当社グループにとっては、配送回数・急配の削減によってMSに時間が生まれ、MSは「顧客支援システム」の研修を受けたり、医療機関への提案に力を注いだりしています。薬剤師からは、「発注業務に追われることがなくなり、検品、入庫、棚入れの回数も減って、患者さまと向き合う時間が増えた」という声が届いており、患者さまへのサービス向上にもつながっています。また、「ミザル」は薬剤師の悩みの種であった不在在庫問題の解消にも寄与します。2019年2月から、「薬局共創未来」会員やグループの調剤薬局以外の薬局へも積極的に提案しています。

患者さまが自分の症状にあった医療機関を検索することができる「病院ナビ」は、2019年12月末現在で月間1,550万人以上がアクセスするサイトに成長しました。医療機関のホームページを作成する「病院ナビホームページサービス」は、2,460軒の医療機関と契約しています。

「初診受付サービス」は、「病院ナビ」や各医療機関のホームページから24時間いつでも簡単に初診および2回目以降の受付ができるサービスです。人間ドックや健診の予約をすることもできます。おかげさまで好評をいただいております。1万1,228軒の医療機関に導入され、1か月に6万人を超えるみなさまにご利用いただいております。

また、わたしたちは、自動音声認識技術を活用して「顧客支援システム」を開発・提案してまいりました。電子薬歴一体型システム「ENIFvoice SP+A（エニフボイス エスピープラスエー）」、電子薬歴一体型レセプトコンピュータ「ENIFvoice

東邦ホールディングス株式会社  
代表取締役会長 CEO

濱田 矩男



Core (コア)」、訪問看護師向け支援端末「エニフナース」など、自動音声認識技術を活用したシステムで高いシェアを占めております。これらを通じて、さまざまなことがわかってきました。音声で記録できるメリットを、今後はさらにいままでとは違った世界へと波及させて、新たなビジネスモデルの構築をめざしてまいります。

### 首都圏の災害に備える 「総合物流センター」を建設中です

わたしたちの流通業務の基盤となるのが、全国の物流センター (TBC) です。各TBCでは、ロット管理によってトレーサビリティを実現するとともに、保冷品自動倉庫によって温度管理を徹底しています。「TBC埼玉」「TBC広島」では、自動ピッキングロボットをとり入れて、「セブン9 (99.9999%)」という高い出荷精度をめざしています。自動ピッキングは、生産性の向上にもつながっています。

災害に強いことも当社の流通基盤の特徴です。TBCでは停電に備えて非常用発電機や代替保冷庫 (保冷コンテナ) を保有しています。TBCが万が一被災した場合には、供給元を他のTBCに切り替えることができます。情報システムも、東京と大阪のデータセンターの2か所で運用し、常に切り替え可能です。年に数回、全社規模で災害対策訓練も実施しています。2018年から2019年にかけて、台風をはじめとするさまざまな災害が日本列島を襲いましたが、わたしたちはどこおきなく商品供給してまいりました。

首都圏の災害に備える大規模拠点として、東京都大田区に「総合物流センター」を建設中です。この「総合物流センター」は、東京都が災害時広域輸送基地に指定している京浜トラックターミナル「ダイナベース」内にあり、災害リスクの高い首都圏において、災害が起こったときでも中断することなく医薬品を供給する体制をつくり上げていきます。稼働は2020年秋頃の予定です。

こうした物流体制は営業部門との連携がとれてこそ効果を発揮します。「営業と物流の一体改革」を合言葉に、さまざまな施策を進めています。

### 高品質のジェネリック医薬品を製造し、 安定供給しています

グループ内の共創未来ファーマ (株) は、ジェネリック医薬品の製造、販売をしています。ジェネリック医薬品は、同じ成分の薬に対してたくさんの製品が発売されており、医師や薬剤師のみなさまは、「数が多すぎて判断に迷う」という悩みを抱えています。共創未来ファーマ (株) は、高品質のものを安定的に供給するために、精度の高い最新の検査機器を導入して、溶出試験など独自の検証を実施することで品質を担保しています。製品数は年々増やしており、2019年3月には富士フィルムファーマ株式会社からの医薬品製造販売承認の承継 (26成分64品目) および販売権の移管 (30成分50品目) をすべて終了しました。高品質のジェネリック医薬品を安定的に供給することによって、医師や薬剤師のみなさまの課題を解決するとともに、ジェネリック医薬品の集約化をはかることで当社グループの収益性の向上につなげていきます。

### 「ひとりひとりのエコアクト」を心がけて 環境の保全に貢献します

前述の自然災害も地球温暖化の影響があると考えます。環境問題は現代社会の大きな課題であり、それぞれの企業が改善に向けて努力することが求められています。TBCや営業所の建物や設備の省エネルギー効率を改善するだけでなく、わたしたちは、社員ひとりひとりが日々の仕事のなかでよりよい環境づくりをめざして行動しています。わたしたちの医薬品卸売事業と調剤薬局事業は、事業所が全国各地に広がっていることが特徴です。地域に深く根ざしてこそその企業であることを肝に銘じて、今後も、「ひとりひとりのエコアクト」に取り組みます。

「全ては健康を願う人々のために」

わたしたちは、このグループスローガンのもとに、国民のみなさまが「安全で・安心で・質の高い」医療を受けられるよう、よりいっそう力を尽くしてまいります。